



本年度の水稻の出穂期は、平年並み～やや早くなりました。



1. 今年の気象

高温・少雨

◇平均気温

- ・4月第1半旬は平年よりかなり高く、その後は平年並みに推移しました。
- ・5月・6月は平年並み～平年より高く推移しました。
- ・7月第1半旬は平年より低くなりましたが、その後回復し、後半はかなり高くなりました。
- ・8月第3半旬は平年より低くなりました。

◇日照時間

- ・4月は平年並み～かなり多くなりました。
- ・5月以降は平年並み～少なく推移し、6月第2・3半旬はやや多くなりました。
- ・7月前半は平年よりかなり少なく推移し、第4半旬以降はかなり多く推移しました。
- ・8月第3半旬は平年より少なくなりました。

◇降水量

- ・4月上旬は少なく、その後は多い～かなり多くなりました。
- ・5月以降は平年より少なく推移しました。
- ・6月14日に梅雨入りし、7月第1半旬はかなり多くなりました。7月16日に梅雨明けし、その後は少なく推移しました。
- ・8月第2・3半旬は、平年より多くなりました。

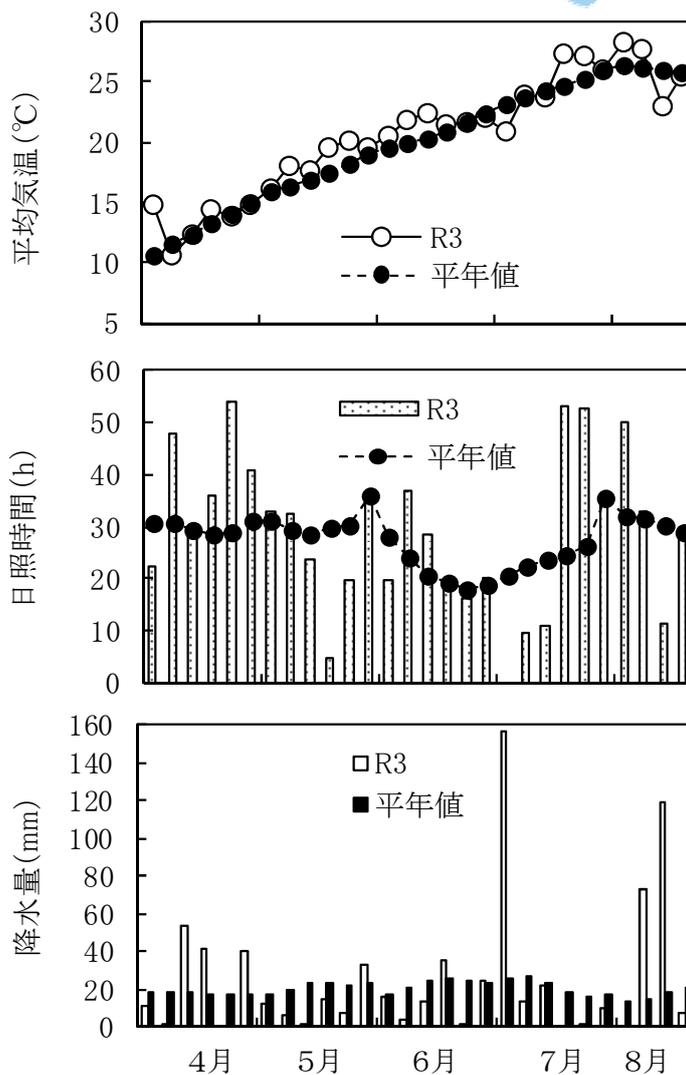


図 平均気温・日照時間・降水量の推移
(令和3年つくば市館野アメダスデータより)
(平年値は1991～2020年の平均値)

◇◇◇ 普及センターからのお知らせ ◇◇◇

- ・普及センターでの土壌診断は、おおむね月1回実施しています。
- ・毎月20日締め、1経営体5点以内(厳守)をお願いします。





2. 管内の水稻の出穂状況と収穫適期（予測）について

出穂期は平年並み～平年よりやや早くなりました。今年の登熟期間も高い気温で推移しているため、収穫適期は予測値より早まる可能性がありますので、ご注意ください。

調査地点	品種		田植日	出穂期	収穫適期 (※予測値)
つくばみらい市谷口	ふくまる SL (早生品種)	本年値	4/29	7/19	8/26-8/31
		平年値	4/30	7/22	8/29-9/3
つくばみらい市長渡呂新田		本年値	5/2	7/17	8/24-8/29
つくば市上菅間		本年値	5/1	7/25	9/2~9/7
		平年値	5/1	7/25	8/29~9/3
つくば市今鹿島		本年値	5/2	7/23	8/31~9/5
		平年値	5/1	7/24	8/28~9/2
つくばみらい市中島	コシヒカリ (中生品種)	本年値	5/1	7/22	8/30-9/4
		平年値	4/31	7/24	8/28-9/2
取手市清水		本年値	5/2	7/24	9/1-9/6
つくばみらい市長渡呂新田		本年値	5/4	7/25	9/2-9/7
つくばみらい市新戸		本年値	5/14	8/3	9/16-9/21
利根町中谷	オオナリ (中生品種)	本年値	5/8	7/19	— (飼料用米)
利根町早尾		本年値	6/1	8/23 予測	

※「出穂期」は穂が40～50%出る時期です。

「コシヒカリ」の収穫適期は、出穂後35～40日、帯緑籾率10%頃から約5日間。

「ふくまる SL」の収穫適期は、出穂後38～40日、帯緑籾率6～15%頃。

◆出典：普通作物栽培基準（含む、工芸作物）（平成29年3月 茨城県農業総合センター）



3. イネ縞葉枯病の発病状況（速報）と今後の対策

イネ縞葉枯病は、ヒメトビウンカが媒介するウイルス病で、管内でも発生が問題となっています。

今年のイネ縞葉枯病の発病状況（穂揃い期）は、昨年に比べ、横ばい～やや多い傾向となっています。箱剤の施用により、被害の拡大が抑制されていると考えられますので、発病情報等を参考にして、次年度の対策も徹底しましょう。

ヒコバエ（再生イネ、二番穂）や水田周辺のイネ科雑草は、イネ縞葉枯病ウイルスを媒介するヒメトビウンカの生息・越冬場所になります。

県農業研究所の調査の結果では、水稻収穫後の耕起時期は早い方が、水田畦畔のヒメトビウンカの越冬量が少ないことがわかっています。ヒコバエはできる限り早く耕起し、水田周辺の雑草地を除草しましょう。

調査地点		発病株率 (%)				発病茎率 (%)			
		H30	R1	R2	R3	H30	R1	R2	R3
つくば市	上菅間	22.0	9.0	6.3	3.0	3.8	1.3	3.0	0.6
	今鹿島	7.0	1.3	2.3	3.0	2.0	0.7	0.9	0.0
守谷市	野木崎	-	-	2.3	4.0	-	3.7	0.7	0.5
つくばみらい市	中島	10.3	13.3	0.0	5.0	0.7	2.1	0.4	0.0
取手市	清水	-	-	-	0.4	-	-	-	0.0
利根町	立崎	-	1.3	0.7	4.8	-	0.1	0.0	0.5

調査方法：発病株率は、連続 100 株×3 反復（計 300 株）調査。

発病茎率は、連続 5 株×5 反復（計 25 株）調査。

発病の判定は、発病株率と同様。

調査時期はコシヒカリを対象に、穂揃い期以降（8/3、10、11）に実施した。

利根町は箱施用剤無施用。



*イネ縞葉枯病防除マニュアル（茨城県版）もご確認ください。

（茨城県農業総合センター農業研究所作成）

http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/noken/documents/shimahagare_manual.pdf





4. 大雨や大風に、ご注意ください！

～台風等による、水稻の被害防止対策～

<事前対策>

- 1 排水路のつまり等がないか、点検を行います。
- 2 大雨の前に十分減水したうえで、一定量以上の水かさになると落水する対策をとっておきます。

<事後対策>

- 1 冠水した圃場では、一刻も早く退水措置をとり、稲を水面上に露出させます。
- 2 水田に入った水は速やかに排水し、その後は間断かんがいを行います。



なお、台風通過中などは、絶対に、ほ場や水路の様子を見回りに行かないでください！

